

http://www

知求会 EU 支部ニュースレター

# Newsreel World

2011年12月15日  
第3号

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp  
facebook : Matsubara Mamiko

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

プロフィール: 松原真実子 MATSUBARA MAMIKO 青森県八戸市出身 国際文化専攻修了  
富士通・プラザと民間企業を経てビジネス専門学校・東京情報大学で勤務  
3.11 千葉市勤務先大学内で被災。現在イタリアはミラノ近郊レッコ市滞在  
修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用』

## この号の内容

- 1 イタリア  
ワインで日本支援
- 2 EU 支部だより

- ・震災で両親を亡くした子供たちをイタリアへ招待
- ・イタリアで勉強してもらうために
- ・Vinitaly 2011 Verona

## イタリア ワインオークションで日本支援 最高額 1本€5,500

—Vino:asta benefica per il Giappone, 5,500 euro per una bottiglia—



Vinitaly 2011が4月7日から11日、ロミオとジュリエットの街、Veronaで開催された。その中で、3.11大震災で孤児となった子供たちへの支援に役立てようと、ワイン製造者をはじめとする愛好者・関連業者そして日本領事らが集まりワインオークションを実施。最高落札額1本€5,500(約¥550,000)の高値をつけた。

このワインは、「どんな時でも私たちの心は共にある」という意味から“Insieme”「共に」と名付けられ、2011年にちなんで2,011本製造されたものである。Veronaに、1本€50(約¥5000)で販売している店舗があるにもかかわらず、オークション会場ではそれ以上の高値で約1,000本が落札された。

これら収益金の€80,000(約¥8,000,000)は、地震や津波で両親を亡くした日本の子供たちをイタリアへ招き、イタリアで勉強してもらうための渡航費をはじめとする諸費用にあてられる。(22/11/2011 Livero)

<http://www.liberoquotidiano.it/news/874470/Vino-asta->

## EU支部だより —イタリア人の休暇観—



面白いタイトルの記事を見つけた。不況の影響で、イタリア人の休暇が短くなった。という内容の記事であるが、そのタイトルに「まるで日本人のよう」という1文が入っていたのが目にとまった。イタリア人にとって、仕事の鬼、ワーカホリック、エコノミックアニマルなど休暇もとらず働くといった日本人のイメージは今なお健在のようだ。

短くなったといっても、イタリア人の休暇は平均取得日数26.4日で世界4位。日本人は9日で14位だ。日本人からみれば恵まれたイタリアの休暇事情だが「日本人」を引き合いに出してまで短くなった休暇を表現したのは、おそらく特別な意味があるのではないだろうか。そう思い、イタリア人の休暇観を聞いてみた。

- ・イタリア人の休暇が減少
- ・日本人のイメージ
- ・言葉の意味
- ・休暇と家族と愛情と

◎イタリア人はクリエイティブな仕事が好きだ。それは、他人に褒められたり称賛されたりするだけの仕事ではなく、自分自身が満足する仕事がしたいという意味だ。そのためには、仕事から切り離れた時間をもって、自分をリセットする必要がある。だから、休暇は何もしないでゆっくり家族と過ごしたい。(40代男性)

◎職場に家族はいないから職場を離れたら家族といっしょに居たい。(30代男性)

◎暑さから逃れだり寒さを楽しみに変えたりと家族で楽しむこと。(50代女性)

◎家族といっしょにソーシャルライフを広げるためのもの。(40代男性)

◎自由のない仕事から解放され、家族と共に自由を満喫すること。(30代男性)

休暇をとらない日本人は悪くて、休暇をとるイタリア人が良いということではない。家族と共に過ごす時間を楽しみ大切にしたいというイタリア人の休暇観は、家族への愛情を表現するイタリア人なりの1つの方法なのだと感じた。(松原)

[http://www.ansa.it/web/notizie/rubriche/economia/2011/12/02/visualizza\\_new.html\\_11093386.html](http://www.ansa.it/web/notizie/rubriche/economia/2011/12/02/visualizza_new.html_11093386.html)